



2019年産（2018年播種）



# 麦類の生育概況 vol.5

埼玉県マスコット  
「コバトン」

（2019年4月1日現在）  
埼玉県農業技術研究センター

## 要 約

- ◎気象概況：3月の平均気温は高かった。降水量と日照時間は多かった。
- ◎生育概況：小麦はやや生育が早い。大麦は3月下旬の低温により出穂期にばらつきがみられる。生育量はばらつきがある。
- ◎今後取るべき技術対策
  - ・追肥：出穂前に追肥ができず、葉色の低下している小麦ほ場では、穂揃期に葉面散布を行う。
  - ・排水対策：排水機能を保つよう明渠と排水溝の点検補修を行う。
  - ・雑草防除：カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に混入する恐れのある雑草は確実な除草を行う。
  - ・病虫害防除：麦の生育に合わせた赤かび病防除計画をたて適期に防除を行う。

## 1 気象の概況

3月の平均気温は期間を通して平年を上回り、月平均では平年より1.7℃高かった。降水量は月の前半にまとまった降雨があり、月合計では平年比123%であった。日照時間は第1、2半旬が平年を下回った以外は平年より多く、月合計では平年比110%であった。

## 2 生育の概況

### （1）センター内生育相（11月12日播種）

#### ア 小麦（さとのそら）

3月上旬の多雨と高温により、草丈は急速に伸長し、平年をわずかに下回る程度で推移している。莖数は、先月に引き続き平年を下回って推移しているが、高温により平年より早く無効分げつは切りあがったと考えられ、穂数は平年並みからやや少なくなる見込みである。

莖立期は、平年より1日早い3月13日であった。

葉位も急速に進んでいる。本年度は冬季が高温で推移したため、低温遭遇の時間が不足した。そのため、秋播性がIVである「さとのそら」は幼穂分化が遅れ、平年よりも主稈総葉数が増加したと考えられる。

茨城県が作成した「麦の莖立ち期、出穂期予測法」と、熊谷地方気象台の気象データを用いた予測では、出穂期はほぼ平年並みの4月12日頃となる見込みである。

#### イ 大麦（彩の星）

小麦同様、草丈は急速に伸長し、平年並みで推移している。莖数は先月に引き続き平年を大きく下回って推移した。4月1日調査時の達観では、今後天折すると見込まれる弱小莖も多く観察されたことから、穂数は平年より少なくなる見込みである。また、上位葉に黄化・斑点症状が見られる。

葉位の進展は平年より早く、主稈総葉数はほぼ平年並みであった。そのため、出穂期は平年より12日も早い3月20日となった。

## (2) 県内全般

降雨が多く、気温も高く推移したことから、生育量は平年並みからやや多く、小麦の莖立期は平年よりやや早い。ビール麦は、11月上旬播きは高温により出穂期がかなり早まったが、11月中旬以降播きでは、3月下旬に数日あった低温により生育がやや停滞し、出穂期は概ね平年並みと予想さればらつきがある。

また、一部の圃場で3/24の低温で寒害とみられる葉の黄化や幼穂の凍死が認められている。

## 3 今後の生育予測

### (1) 気象予測

気象庁が4月4日に発表した向こう1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多い見込みである。平均気温は平年並または低い確率ともに40%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%、日照時間は平年並から多い確率ともに40%である。

また、3月25日発表の3か月予報では、5月の天気は数日の周期で変わり、気温は高い確率50%です。6月は平年に比べ、曇りや雨の日が少なく、気温は平年並から高い確率ともに40%である。

### (2) 生育予測

今後、気温は平年並または低い予報のため、大麦の未出穂のものや小麦の出穂期は概ね平年並みで、生育も平年並みに推移すると考えられるが、近年、気温の変動が大きいいため、高温による急激な伸長や低温による生育の停滞、出穂期前後の低温による稔実障害も予想される。

## 4 今後取るべき技術対策

### (1) 追肥

小麦のうち、出穂前に追肥ができず、葉色が低下しているほ場では、穂揃期に窒素成分で1～2kg/10a程度葉面散布を行い、適正タンパク質含有量を確保する。

### (2) 排水対策

降水量は並みから少ない予報であるが、今後のまとまった降雨は、根の機能を低下させ湿害を助長する。管理作業等で明きよが埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

### (3) 雑草防除

麦類の出穂後は、ほ場内の手取り除草とほ場周囲の除草を徹底する。

特に、カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に子実が混入する恐れのある雑草は確実な除草を行う。

#### (4) 病害虫防除

赤かび病の防除は必ず実施する。防除適期は下表を目安にする。

近年、急激な高温により登熟期間が短縮される状況が多く見受けられる。今年も5月の気温が高い確率50%の予報であり、収穫前日数の長い薬剤もあるため、使用基準を確認し、周辺ほ場への飛散防止に十分注意を払い、計画的な防除を実施する。

##### 赤かび病防除の目安

小麦	<ul style="list-style-type: none"><li>出穂から7～10日後を目安に開花初めを確認し、直ちに薬剤を散布。</li><li>その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。</li></ul>
二条大麦	<ul style="list-style-type: none"><li>穂揃期の10日後に薬剤散布。</li></ul>
六条大麦	<ul style="list-style-type: none"><li>穂揃期に薬剤を必ず散布。</li><li>その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。</li></ul>

## 解析・考察に用いた具体的数字

### 1 3月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	8.4	6.2	12.9	11.8	4.8	1.4	31.5	8.5	24.5	32.4
2	8.8	6.8	13.8	12.6	4.0	1.9	15.0	8.8	28.0	33.4
3	9.7	7.6	16.4	13.3	4.6	2.6	34.5	9.5	45.8	33.3
4	10.1	8.3	16.6	13.9	4.4	3.4	0.0	11.5	44.0	32.0
5	10.3	8.9	16.7	14.4	4.1	4.1	0.0	13.3	37.6	30.6
6	10.4	9.8	16.0	15.2	6.0	4.9	3.0	16.6	37.5	36.7
平均	9.7	8.0	15.4	13.6	4.7	3.1	合計 84.0	68.2	217.4	198.4

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値。

### 2 生育状況

品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年	平年比	本年	平年比	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年差
		(cm)	(%)	(本/株)	(%)	(L)	(L)	(g/100本)	(%)	(%)	
さとのそら	3月11日	22.3	93	9.5	85	9.9	1.1	94.4	74	15.1	-1.3
	3月20日	33.6	89	7.7	79	11.3	1.6	168.8	80	20.7	3.7
	4月1日	46.7	90	5.3	70	12.4	1.6	279.9	74	25.5	5.2
彩の星	3月11日	36.3	103	10.4	70	10.2	1.3	214.9	80	14.7	1.3
	3月20日	51.6	103	8.8	65	10.6	0.8	305.7	73	19.0	4.3
	4月1日	73.3	104	6.8	69	10.6	0.1	602.4	94	23.0	5.2

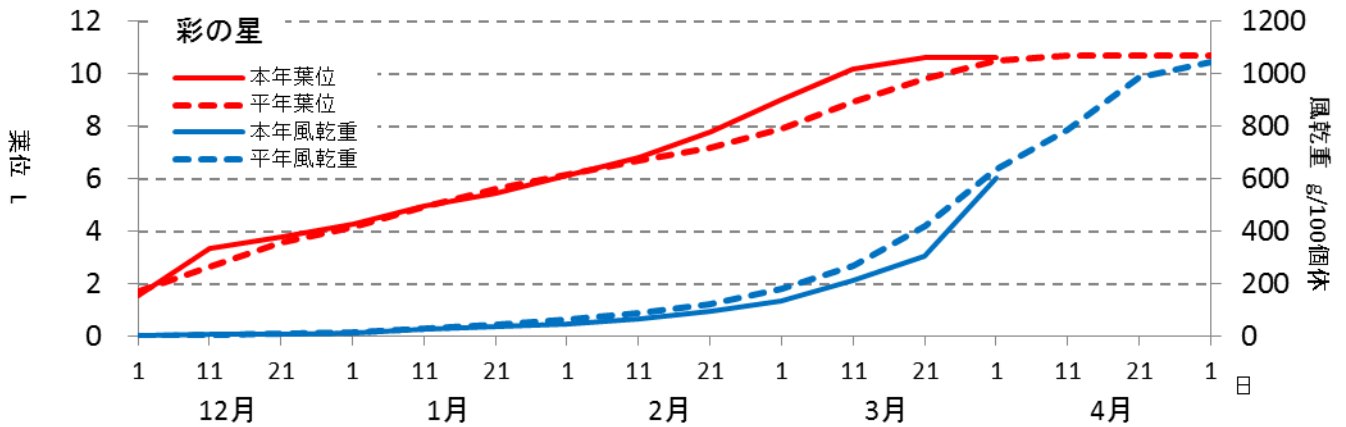
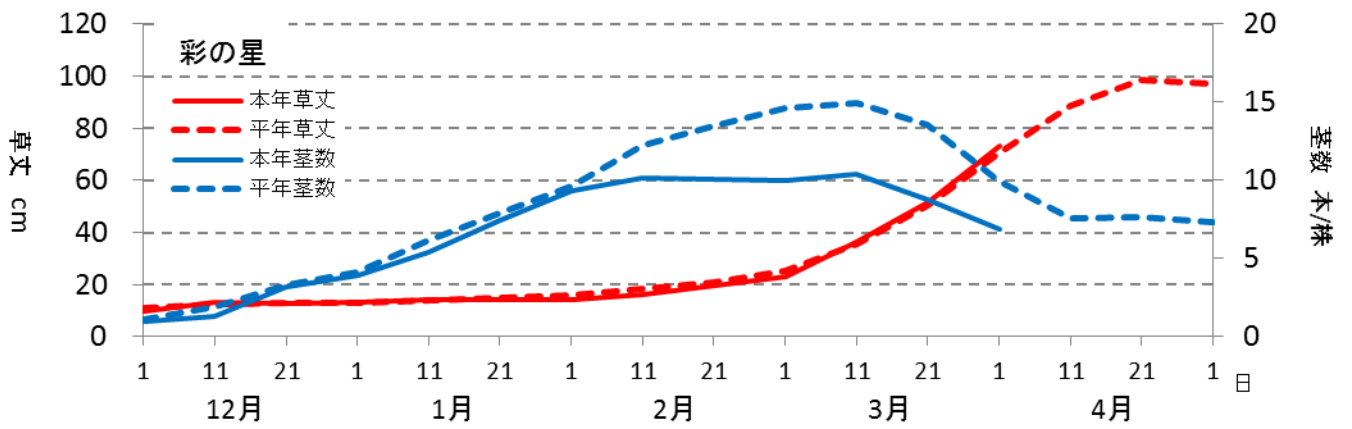
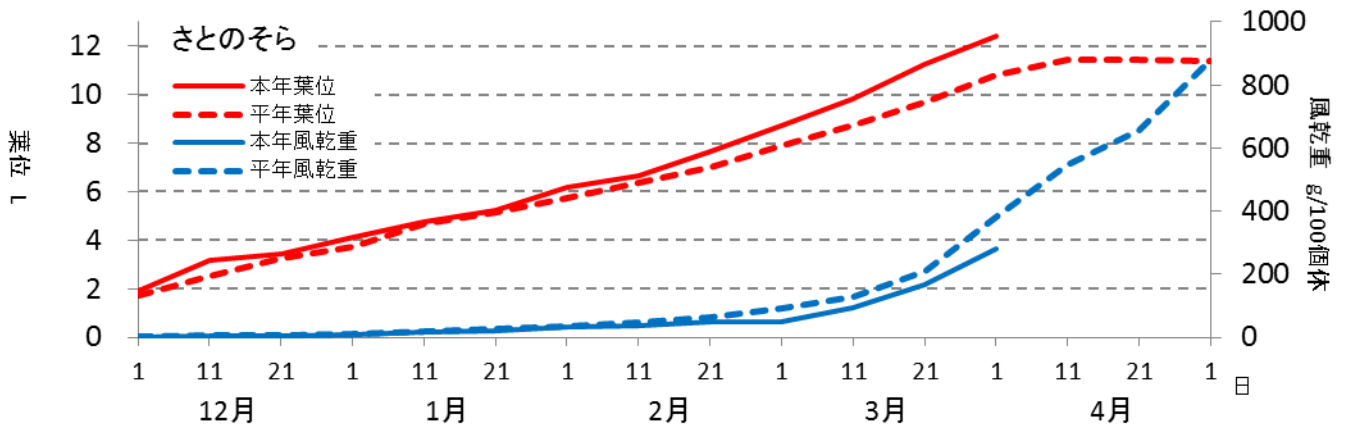
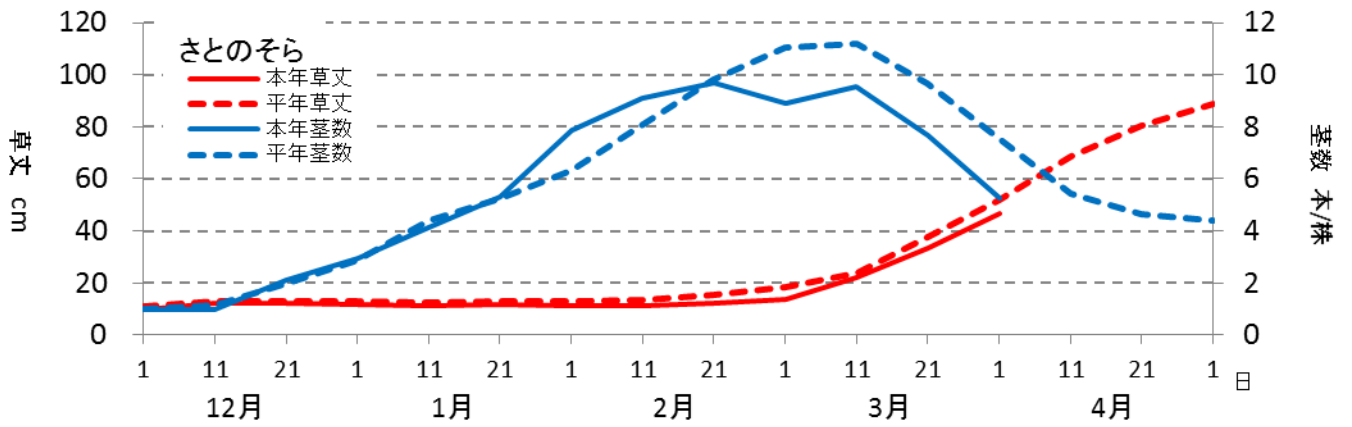
注1. さとのそら平年値は、過去5年間の平均値。□ 彩の星平年値は過去7年間の平均値。以下同様。

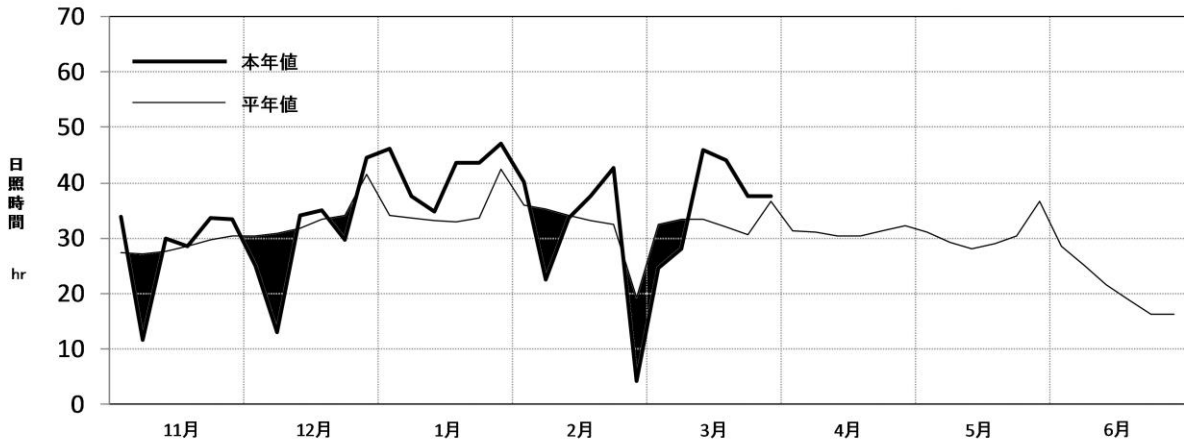
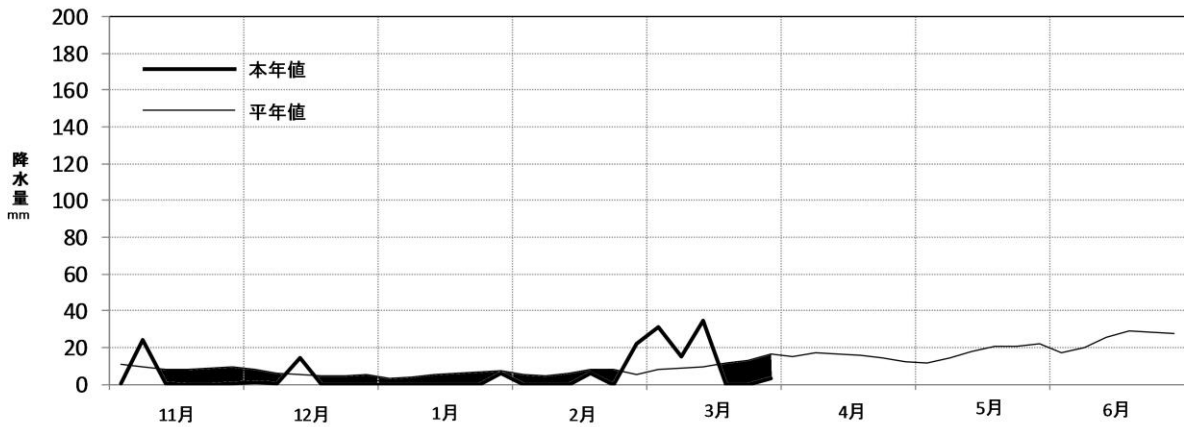
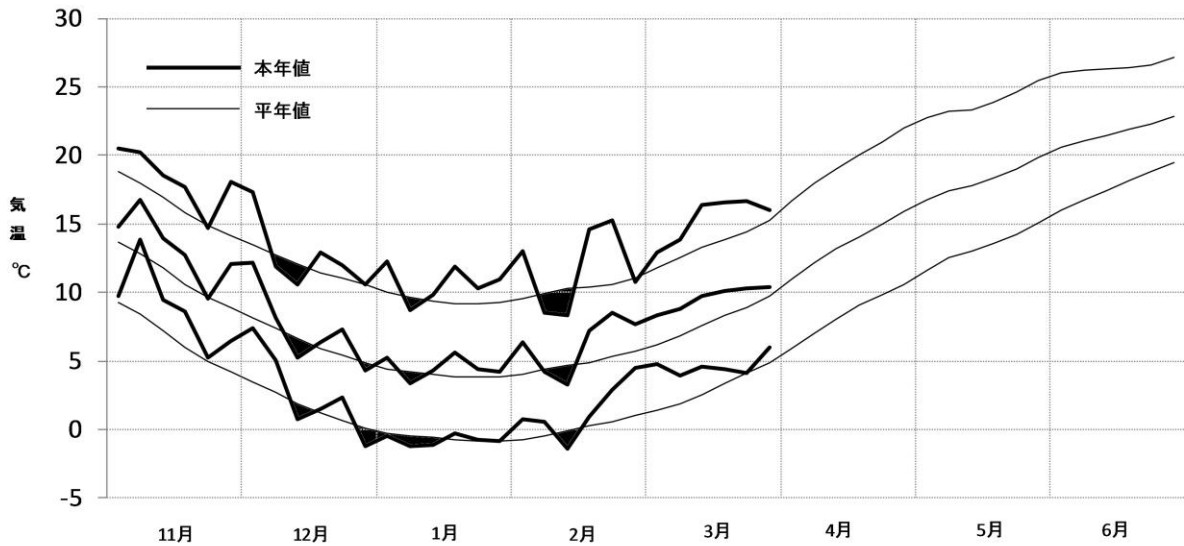
注2. 風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

### 3 出穂予測

品 種 名	茎立開始期			出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
さとのそら	3/13	3/14	-1	-	4/11	-	-	4/13	-	-	4/16	-
彩の星	2/22	3/4	-10	3/17	3/29	-12	3/20	4/1	-12	3/22	4/4	-13

#### 4 生育経過





2018年冬作期間気象図  
(熊谷地方気象台測定値)